

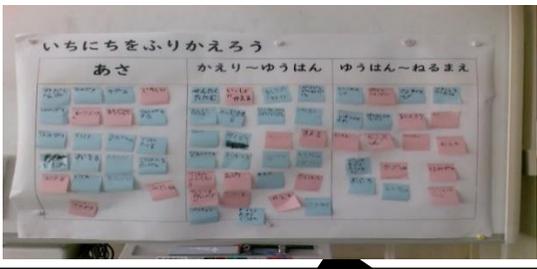
生活科 第1学年 『ひろがれ えがお』

対話力

☆指導のポイント☆

- ・ 普段の生活を振り返り、「自分でやっていること」以外に「おうちの人にやってもらっていること」が多くあることに気付かせ、自分の生活に関心をもたせることが大事！
- ・ 家庭のよさを感じたり、家庭でできることがあることに気付いたりして、今後の学年で学ぶ「地域の創生」に関わる素地をつくっていく。

【思いや願いをもつ】・・・一日の生活を振り返り、全体で共有しながら学習計画をたてる。



「ひとりでできる挑戦（例：学校の支度を言われる前にやる）」と「だれかのためにやる挑戦（例：弟と遊んであげる）」のどちらも『えがおをひろげる挑戦』であることを押さえる。

【活動や体験をする】・・・笑顔いっぱい大作戦を計画する



普段の生活を振り返り、「自分でやっていること」以外に「おうちの人にやってもらっていること」を整理する。

【活動や体験をする】

- ・・・活動をタブレットで撮影する。



家庭での挑戦を撮影し、学級で共有することで、友達に分かりや

【表現する・行為する】・・・家で挑戦したことを紹介しあったり、これからも挑戦したいことを考える。



友達の発表を聞いて、いいなと思ったことや自分と似ているところを付箋に書く。
意見を学級で共有することで、どんな挑戦でもおうちの人が笑顔になっていることに気付かせる。

伝えるときの視点だけでなく、聞くときの視点もあって友達の良い発表に気付くやすくなると思います。また、教師は児童に発表させっぱなしにしないで発表した児童へのフィードバックをすることが大切です。



第2学年 『とび出せ！大森の町たんけんたい』

生活科

対話力

☆指導のポイント☆

- ・創造的な資質・能力の素地を明確にして、手立てを積み重ねながら育成していくことが大事！
- ・「すてき」に気付かせ、自覚化させることが大事！
- ・店や施設の「すてき」だけでなく、人にも焦点を当て、ものの方・考え方を広げながら、地域の愛着や誇りへと繋げていくことが大事！

「思いや願いをもつ」…(第2次)第1次をもとに、町の「すてき」を見付ける計画を立てる。



第1次で体験した一度目の探検から「すてき」とはどういうことかを考える。

働く方へのインタビューが行えるように商店街や関係機関に依頼し、児童がまとめた質問内容を渡す。

「活動や体験をする」…チームごとに、探検に出かける。



町の「すてき」をクイズや写真を使って表現し、聞き手が進んで町の良さを見付けられるようにする。

「感じる・考える」
…(第3次)他のチームとの対話を通して町の「すてき」を集める。



「表現する・行為する(伝え合う・振り返る)」…活動の振り返りをする。
★(2学期)洗足池小学校と交流し、町の「すてき」を伝え合う。

振り返り

学習を振り返って

- ・町探検が楽しかったので、またやりたい。
- ・グループで話し合って協力できてよかった。
- ・インタビューや発表を聞き、大森に詳しくなった。
- ・もっと大森の町が好きになった。
- ・調査して「すてき」を見付けられてうれしかった。
- ・いっぱい勉強してがんばったから成長したと思う。



大森の「すてき」を紹介するための発表形式も選択させ、より主体的に活動できるようにする。

町の「すてき」とはどんなことかを話し合って決めました。共通の認識をもつことで、伝えやすく、かつ集めやすくなります。児童にとって「分かりやすくなる」ことは、主体的な活動につながりました。

また少人数のチーム活動は、励まし合うなどして、粘り強い取り組みを支えました。また、相談することで、対話を大切にしたり、繰り返し思考したりすることにもつながりました。



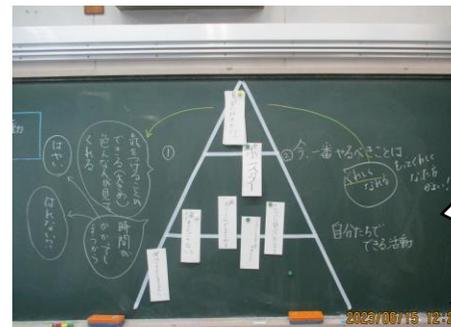
第3学年『大森の海苔いつ広めるの？ 今でしょう！』

探究学習

☆指導のポイント☆

- ・外部との連携をする際は、何を伝えてもらいたいかなどについて、事前に十分に打ち合わせをする。また、どの展開で児童と関わりを持たせるのかタイミングが大事！
- ・総合的な学習の時間の学習スタイルを定着させるために、スパイラルをノートに書かせ、今の学習進度や次行うことを想起させることが大事！

「整理・分析」…どのような方法で海苔のことを広めていくのか考えた



ピラミッドチャートを使い、自分たちがやることの優先順位を決めた。また、発表に必要な情報を取捨選択し、発表（ポスター、チラシ、新聞など）の準備をした。

インタビューをすることで、自分たちが知らなかった、大森の地域で有名な物がたくさん出てきた。その中から自分たちが調べたいテーマを決める。

「課題の設定」……



大森で有名なものを親にインタビューし、様々な意見から課題を焦点化

インターネットや本を活用し調べ学習をしたが、理解できないことが多かった。そのため、実際にインタビューや施設見学をすることにした。

「情報の収集」

…守半海苔店、海苔のふるさと館を見学



「守半海苔店の店主」「海苔のふるさと館の方」「保護者」に海苔のすてきを伝えたいという思いから、学校にお招きし、発表会を行った。

「まとめ・発表」…海苔の発表会



3年生から総合的な学習の時間が始まり、1学期の内に学習のスタイルを身に付けることが大切だと考えました。そのため、ノートに学習のスパイラルを書かせ、今の学習進度を常に把握できるようにしました。また、どのタイミングで児童に地域施設や人材と出会うのかを考えたり、教員と担当で密に打ち合わせたりすることが大切だと思います。

第4学年『発信しよう！大森の魅力』

動画作成

☆指導のポイント☆

- ・外部との連携をする際は、何を伝えてもらいたいかなどについて事前に、十分打ち合わせをすることが大事！
- ・素地の育成の何に重点を置いた单元なのか、明確にして单元計画を作成することが大事！
- ・1・2年生の生活科や3年生の社会科の学習を想起させながら、発展的な内容にしていくことが大事！

「整理・分析」…ゲストティーチャーによる動画作りについての授業



ゲストティーチャーを招き、動画作りについて教えてもらう。動画作りの良さや大変さについて話をしてもらうことで、児童がやりたいこととやれることについて考えられるようにする。

【外部連携の充実】

見学先訪問の予約を自分たちで行う。授業の時間以外の時間なので、保護者の方に協力してもらう。絵コンテを作り、動画作りの見通しを持たせる。

【外部連携の充実】

「課題の設定」…大森の魅力などを出し合いながら課題を焦点化させる。

大森（大田区）のいいところはどこなところがありますか？
大森（大田区）のまちもアピールしたり、多くの人にとってもらうためにはどんな方法がありますか？

- ・色々なお店がある。
- ・やさしい人がたくさんいる。
- ・楽しい所がたくさんある。
- ・公園がたくさんある。

・知り合いに手紙を送る。

前年度までの学習を想起しながら、「もっと地域について調べたい！」「地域の良さを発信したい！」という児童の願いを引き出す。

【見通しをもって学習を進めるための工夫】

「情報の収集」

…作成した絵コンテ作成。



完成して動画をいろいろな人に見てもらうことで、児童の充実感や相手意識を高められるようにする。

【学習過程の工夫】

「まとめ・発表」

…紹介動画の発表会



動画作りが目的とならないように、常に、「なんのために」、「だれのために」ということを意識させることが大切です！収集した情報を、動画を使って表現するという方法を経験できたことは、高学年でのさまざまな活動に生きていくと思います。



第5学年『ARTから考える Well-being～FLL 大会に挑戦～』

☆指導のポイント☆

- ・「プレゼン」と「ロボット」に分けた長期的な学習になるので、見通しをもたせることが大切！
→学習過程の掲示、振り返りシートの活用
- ・専門家に聞く体験は児童にとって貴重！外部連携をする際は、「何を知りたいのか」を明確にして、教員→児童の順でアポイントメントをとる！
- ・教師はファシリテーター！！

出会い・・・「プログラミング（最新技術）との出会い」



株式会社シーディアの運営するプログラミング教室「さくらぼ」の出前授業で、プログラミングの基礎を教えてください。

【外部連携の充実】

「コンセプト」…最新技術を使って、解決をする課題を見付ける。



- ・SDGsを学んで、どんな課題があるのかを知る。→FLLのテーマ(今年はアート)
 - ・アートの課題について、最新技術を使って解決できないか考え、チームごとに振り返りシートにまとめる。
- 【見通しをもって学習を進めるための工夫】

「デザイン」…解決策について、専門家からのアドバイスを受けて、試行錯誤する。



プログラミング
プレゼンテーション

- ・ゲストティーチャーを招き、解決策についてアドバイスをもらう。
 - ・教員は、ファシリテーターとして動く。「相手意識をもたせる」、「聞く姿勢の評価」等。
- 【外部連携の充実】

「クリエイション」…校内FLL大会、FLL 予選大会への出場



4年生までに養った「探究学習」「対話力」などを生かして、児童主体で学習を進める力を伸ばせる教科。教師は、「ファシリテーター」として、全体の進行や児童の自立的な学びを支える役割をすることを意識すると良いです。



第6学年『あんなこといいなできたらいいな未来の大森北』

プレゼンテーション

☆指導のポイント☆

- ・外部との連携に関しては、地域コーディネーターを活用し、商店街へアンケートをとり、商店街でできることなどを事前に打ち合わせしておく。
- ・5年時で行った「FLL」の活動を生かし、プレゼンテーションの能力を向上させる。そのためには、5年時で行ったことを振り返る必要あり。
- ・グループ編成の人数に気を付ける。ドローンの活動では、1グループ4人8グループで行ったが、プレゼン発表では8人4グループとなった。

「コンセプト・デザイン」・・・大森北の商店街で働く人へアンケートをとり、その結果から町の課題や、地域の方の願いを知る。それを基に、今後考えられるITを活用した取り組みを子供たちに考えさせる。

総合学習カード

テーマ

安心 安全な 町

考えたIT

警察ロボット
鳩ロボット
光合成ロボット

5回目 学習カード、(地域の課題を基に、未来の大森北にどのような場所にするかというITが実現したらいいかな) 今回の活動でわかったこと・気づいたこと・考えたこと

自分たちが想像するITを使ったものが実際にあった場合、どのような場所に設置するかなどを考えていくことが大切だということがわかりました。

出会い・・・ドローンのプログラミング体験を通して、ITに興味をもたせ、ITとは何かを考えさせる。



導入の1・2時では、日本タタ・コンサルタンシー・サービズ株式会社の方が中心に授業を展開してくれる。普段の生活でITがどこで使われているか考えさせ、その後ドローンのプログラミングに展開していく。

「クリエイション」・・・プレゼンテーションを日本タタ・コンサルタンシーの方にきていただき、オンラインと共に発表を聞いてもらい、フィードバックする。

「IT」をテーマに行ったが、いまず実現可能な内容を考えさせるのか、将来的に実現可能になってほしいものを考えさせるのか、教師側が着地点を考えていかないと、子供たちの考えがぶれてしまいます。今回の授業に関しては、将来的希望や願望をスライドにまとめ、子どもたちの様々な思考力を高めることを主としました。

